

### 祭りの起源

享保年間に起きた飢饉の折、人々の暮らしは困窮を極め、ついには翌年の米を作るための大切な種籾たねもみまで食べ尽くしてしまいました。そこで、当時の領主だった松平通春まつだいらみちはる公は領民を集め、種籾を分け与えたところ、翌年大豊作となり、飢饉から立ち直ることができたと言われています。

以降、保原町中村地区では「五穀豊穰・無病息災・商売繁盛」を願い、若衆たちが下帯姿で3組に分かれ、勇壮に大つつこ(直径1.5メートル、重さ800キログラムにおよぶ大俵)を引き合う祭りとして行われています。

### 伝統を継いで

重さ800キログラムの大俵を作成することは容易なことではありません。つつこ引き祭り実行委員会では未経験者も含むたくさんの人を召集し、材料の調達から作成、会場設営に至るまで、経験者に習いながら、朝から晩まで祭りの準備を進めていました。



# 伊達市指定無形民俗文化財 福島県十大奇祭

# つつこ引き祭り

### 迎えた祭り当日

3月1日㊦の祭り当日は、綱引きの子どもたちによる元気な掛け声ではじまりました。8チームが出場した綱引き大会は大盛り上がり。手に汗握る熱戦は「柱沢ソフトボール部Aチーム」が制しました。



その後、約50人の若衆が集結し、つつこを担ぎ上げてパレードを行いました。つつこの上には正副実行委員長が乗っており、上から抽選券入りの餅をまき、会場を盛り上げました。実行委員長や市長らによる鏡開きの後、行われたのは一番乗り競争。勇壮な

男たちによる本気の走りでの来場者たちを圧倒しました。



そして、荘厳な太鼓の音が響き渡る中、メインのつつこ引き合いが行われました。若衆が掛け声に合わせて、3方向に勢いよくつつこを引き合う様子に、会場の熱も最高潮。30分以上に渡る引き合いの末、下方部に軍配が上がりました。

表彰式では、準ミスターつつこに、中村浩和さんと田中雄一さん、ミスターつつこには須賀田平さんが輝きました。

